

2022 J3 ■順位表 ■第5節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）
（注：*印は消化試合が
数字分少ない）

1	福島	11p	+7	9	2
2	いわき	11p	+6	9	3
3	鹿児島	11p	+4	8	4
4	松本	10p	+4	11	7
5	長野	8p	0	7	7
1*6	岐阜	7p	+3	6	3 --- ---
7	藤枝	7p	+1	5	4
8	北九州	7p	-2	7	9
9	今治	7p	-2	4	6
10	宮崎	6p	+1	8	7
1*11	沼津	6p	0	6	6 A●
12	相模原	6p	-3	5	8
	愛媛	6p	-3	5	8 HO
14	讃岐	4p	-1	6	7
15	富山	4p	-3	6	9 AO
1*16	鳥取	4p	-3	5	8
1*17	八戸	3p	-3	2	5
18	YS横浜	1p	-6	2	8 A△

次回HomeGame

第9節 vs.SC相模原

5/15 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : 松本山雅

2021 J2 7勝13分22敗 勝ち点34:22位

直近の対決と結果

2018/10/21
J2-38節@サンアル

松本 0-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	松本山雅
2022/04/10 J3-5節@富山 富山 1-3 岐阜	2022/04/10 J3-5節@サンアル 松本 2-2 宮崎
2022/03/27 J3-3節@愛鷹 沼津 2-0 岐阜	2022/04/03 J3-4節@ギオンズ 相模原 1-4 松本
2022/03/19 J3-2節@長良川 岐阜 3-0 愛媛	2022/03/26 J3-3節@サンアル 松本 1-2 鹿児島

●2022年3/19(土)第2節・ホーム開幕戦に昨季J2の愛媛を迎えたFC岐阜。苦戦も予想されたが、今季クラブ初ゴールを#30宇賀神友弥が決め、#39畑潤基が追加点を挙げて前半で2得点。後半は我慢する時間帯が続いたが、終盤に再び#39畑が3点目を奪い、最後まで守り切って3-0で勝利し、ホーム開幕戦を快勝で飾った。続く3/27(日)第3節・アウェイ沼津戦で連勝を狙ったが、FKとGKのミスによって、前半に2失点。後半に反撃を試みた岐阜だが、相手の激しい寄せと粘り強い守備に苦しんでいる間に時間が過ぎ、結局1点も返すことができず0-2。岐阜は第3節で悔しい今季初黒星を喫することに。この反省を4/3(日)第4節・ホーム鳥取戦で活かすべく準備していたFC岐阜だったが、3/30(水)に選手に新型コロナウイルスの陽性反応が出て、その後も拡大が続いたためチームは活動停止、試合も開催中止となった。4/4(月)から陽性反応者を除いてチームの活動が再開され、迎えた4/10(日)第5節・アウェイ富山戦。先制点を奪われた岐阜だったが、前半終了間際に#9山内寛史が頭で合わせて同点に追いつくと、後半には#42柏木陽介のCKを再び#9山内が頭でそらして逆転。そして#7村田透馬が突破して折り返したボールを#8窪田稜が決めて3点目。岐阜は3-1での逆転勝利を手にすることができた。

この結果、FC岐阜は試合数が1少ない状態で順位が6位。首位・福島との勝点差は4と、まだ十分に射程範囲内だが、“1試合あたり勝点2”という目標は達成できておらず、今季こそJ3優勝・J2復帰を狙う岐阜にとって満足できる成績では到底ない。今季のJ3は、第5節を終えて5連勝したチームがないものの、無敗のチームが3つあり既に大混戦が予想される。ひとつの敗戦が大きな結果の差となってくるだろう。チーム全体で強い危機感を持ちつつ、今後の試合を戦わなければならない。

さて、今節の対戦相手は松本山雅FCだ。昨季はJ2最下位に終わり、J3初年度の今季は選手を大幅に補強。2年目の指揮を執る名波浩監督の下で、現在37名と岐阜よりも多い選手体制を採る松本は、現在は4位。つまり今節は、上位チーム同士の“勝点6マッチ”だ。また今季の松本は、総得点11でリーグトップの攻撃力を誇る。最後まで自信を持ってゴールを奪おうと向かってくるだろう。当然ながら油断できる対戦相手ではないし、そもそも楽に勝てる試合などJ3リーグに存在しない。それを僕らは沼津戦の敗戦で痛感したはずだ。そして、やはりホーム戦では常に勝利こそが求められている。今節も、キックオフからチーム一丸となって全力で激しく泥くさく戦い、最後まで走り抜いてゴールを奪い、そして勝利する姿を、このホーム長良川で再び見せて欲しい。

松本とのリーグ戦での通算対戦成績は、岐阜の3勝2分7敗・10得点13失点。ホーム戦でも2勝4敗・6得点7失点と負け越している。ただしこれは2018年までの記録で、あまり参考にはならないはずだ。そして、そうであることを信じている。

松本で最も注意すべき選手には、#32横山歩夢を挙げる。スピードを活かした突破やDFからのボール奪取で、高卒2年目ながら既に5得点。この選手を自由にさせないことが岐阜の守備陣には求められるが、#23外山凌も3得点を挙げており、集中した対応が求められるだろう。一方の攻撃陣は、岐阜の守護神も務めていた(17年~19年)#21ビクトルが立ち塞がるゴールをこじ開けねばならない。厳しいミッションだが、必ずや岐阜の選手たちは達成してくれるだろう(なお、岐阜OBの#7田中パウロ淳一は、今季ベンチ入りも果たせていない)。

全国で新型コロナまん延防止等重点措置が解除されたが、今もなお感染再拡大の兆候があり、また開催中止となる試合が岐阜も含めて出ている状況だ。スタジアムでの応援や行動スタイルの緩和も検討が始まったが、まだ見通しは全く不透明の段階。引き続き声を出しての応援は禁止されているが、それでも精一杯の気持ちを込めて、僕らは戦う選手たちの後押しをしよう。松本からは多くのサポーターが、この長良川に訪れると想定されているが、それに負けないホームスタジアムの雰囲気を作りだそう。ゲーフラの掲出や、旗やタオマフを振ることでスタジアムを緑に染め、大きな拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。今節は、きっと選手たちは僕らの気持ちに答えて、苦しい試合でも必ずや勝利を掴み取ってくれるはずだ。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第2節】岐阜 3-0 愛媛

●ワクワクしながら横浜に行って、少し希望は残しながらもスコアレスドローで不安と不満を抱えて帰ってきた開幕戦。さあホーム開幕戦だ！と、多くの岐阜サポがメモリアルに長蛇の列をなし、観客は5,679人。

さてスタメンは……あれ？CBを#17藤谷匠にただけ？開幕戦で結果が出なかった攻撃陣にテコ入れがされなくていいのかな…？と僕は思ったのだけど、蓋を開けてみると、あら全く異なる展開に(苦笑)。各局面で、素早く激しく寄せる。ボールの奪い合いで身体を張り、負けない。縦にボールを送り、必死に走って繋ぐ。そして前半5分に#30宇賀神友弥の今季初ゴール！PA外から狙い澄ましたシュートでした。その後は愛媛も盛り返して、ポストに弾かれたヤバイシュートもあった(汗)けれど、それ以外はほとんど決定的な場面を作らせない。すると前半30分、左サイドに人数をかけて侵入してパスを繋ぎ、相手を引き寄せたところで#38藤岡浩介がクロス、これを逆サイドの#39畑潤基がゴール前に詰めていて、ヘッドで押し込んで追加点！いやー、両サイドが相互に機能して、かつ戦術的に相手をしっかりと崩して奪ったゴールを見たのは、いつ以来なのかしら？(苦笑)

ただし、後半は愛媛のターン。もちろん2点差なのだから岐阜は陣形を崩してまで攻める必要は無く、だから愛媛の攻撃をハラハラして見ていたけれど、たぶん決定機と呼べるような場面は無かったんじゃないかな？もちろん“出会い頭の事故”的な失点が生まれる可能性はあり、そうすると1点差になって試合が分からなくなるから、トドメの3点目を決めたいけれど、なかなかシュートで攻撃が終わらない。このままクローズかな…と思出した後半83分、交替で2トップに入った#39畑潤基が愛媛DFからボールを奪い、GKとの1vs1を冷静に決めてダメ押しの3点目！そのままゴール前に飛び込んでくる姿に、大きな歓喜と『よし、これで勝った！』との安堵が押し寄せたのは僕だけじゃ無いはずだ(笑)。

その後も守備陣はゴールを許さず、3-0で快勝。んー、#15田中順也や#45ンドカ・チャールスにも惜しいシーンがあったし決めて欲しかったけれど、そこまで望むのは欲張りすぎかしら(苦笑)。ただ、少なくともこの試合では、FC岐阜が『どんなサッカーがしたいのか』が明確に見えて、そしてそれを選手たちが着実に実行したという点で、まだ油断はできないけれど、今季に希望が見えるような、そんな試合だった。(ささたく)

●今年もやって来たホーム戦。いつ以来か、こんなドキドキ感なしにゆったりと試合観られたのは(笑)。

宇賀神友弥の先制点は綺麗なコントロールシュート。存外早い時間に先制点が取れたのは大きかったね。2点目の畑潤基のゴールは、組織力で相手ディフェンスを崩せていたなど。相手の見えない裏側から、藤岡浩介のクロスに飛び込んでのヘディングとか、絶妙なポジショニングだったね。

岡村和哉に代わってCBに入った藤谷匠は、フレイレとのコンビも安定していた。強さのフレイレとスピードのある藤谷、タイプの違う2人の組み合わせも面白い。

再び後半途中から入った山内彰。今日も本当に落ち着いたプレーぶり。彼は本当に掘り出し物の存在かもしれない。

相手の脚が落ちてきた所に投入される菊池大介に窪田稜。両サイドから掻き回されると、相手にとっては厄介な存在であることこの上ないだろう。柏木陽介もうかうかしてられないな。

選手個々の能力もさることながら、最後まで規律の取れたサッカーをやれていた事が良かった点ではないか。

試合終わった後、円陣組んでフレイレが激飛ばしてたのが印象的だった。(岐阜の誇り)

●2022シーズンの長良川での開幕戦。風がやや強く、曇りがちではあったけど、雨じゃなくて、ホントによかった。ビールと屋台村の味わいが全然違うもんね。お馴染みの方々と開幕戦のご挨拶を交わし、屋台村では「今季もよろしくお願ひします。」とお声掛け。当然、朝抜き腹ペコで来たんで、兎にも角にも腹ごしらえ。いろいろ食指は動くけど、開幕戦はやっぱりね。こもりの牛串、飛騨牛コロケ、森本工房のソーセージにランドホテルのカレー。勝手に命名した【屋台村四天王】。コレがワタクシの『おせち』ですワ。新規参入のわさびビール丼も美味しかったです。

スタジアム内にビール持ち込むのも久しぶり。最近のポジションである、メインスタンド南側で観戦。目の前で、今季の初ゴール。ソレが、宇賀神、というのもいい。見事なコントロール・シュートでした。さらに、2点目の畑のヘッドつてば、もうね。なんて、エロいポジション取りだよ、と。これで、TJのが決まったらなあ。終了間際にも、しつこい前プレからのボール奪取で畑が2点目。文句なしのMOM。しかし、シュートは5本なのか……。愛媛の方が多かったんだな。たしかに、ヤバイ場面は何回もあった。キリのビッグ・セーブも目の前だったし。

そんな流れでも3-0の完封というのが素晴らしい。全体的にバランスの取り方がよくなったように見えたり、メリハリのあるプレスも効いてたように思う。のべつ幕無しじゃないから、畑もずーっと動けてたし、それが3点目に繋がったんじゃないだろうか？それにしても、キックオフのボールを大事にして、前に出すにもキチンと繋げるようにするサッカーは心地よい。ボールを無造作に最終ラインに下げて、ただ闇雲に蹴り出すという、キックオフから攻撃権を放棄するサッカーが、どれほど、ボクの中でストレスとして溜まっていたのかわかった試合でもありました。完勝劇、とは言えないけど、こういうのが見たかったんだよ、うん。仲間と呑む祝杯の美味さったら、もう。ここ2年はなかった味わい(苦笑)2019の開幕戦……ぐらい？王子の折り返しに宏矢が詰めたりした山形戦。長かったな……。まだまだ、こんなじゃ、物足りないけどね。試合後に旧知の浦和サポさんにウガのゴールを報告したら「見てました。」と。そして、「いかにも、彼らしいゴール。彼のゴールは、だいたい、あんな感じです。」とのこと。じゃあ、あの辺りを、勝手に【ウガ・ゾーン】と命名。ゴールが何本決まるか、楽しみにしてます。よろしくね！

あ、入場時にトラブル。シーチケのカードはハードなヤツと情報記載の紙のヤツと両方いるのか。捨てたか？と思って焦ったよ、危なかった。でも、わかりにくくない？ボクだけですか？以後、気をつけます。(ぐん)

●開幕戦では「大丈夫かな……？」と思った。で、ホーム開幕の愛媛戦は3-0の勝利だったわけだが、『岐大通』で間違っただけを書いたとは思っていない。某・特撮モノで知られたセリフで言うなら「だが私は謝らない。」というヤツだ(笑)。攻撃についてはずいぶんと整理がついたと思ったし、仕掛け方がちゃんとチームに浸透したな、と思った。1試合でここまでちゃんと修正がされるとは思っていなかった。なにせこれまでの監督さんは(以下省略)。

シュート数では劣勢(5-9)だった。相手を圧倒したわけではないけれど、決めるべきところをキチンと決めて勝った試合だった。よく、引き分けたり負けたりした時に「決めるべきところを決めないと……」という形容がされるけれど、その逆。攻撃では、2点目の畑。チーム2点目ではCF勢がニアで相手DFを引きつけたところにちゃんとファーを狙って飛び込んでいった。ポジションを中央に移してからは、相手ボールホルダーにちょっかい出してボールを奪うとキチンと流し込んでみせた。

守備は、フレイレ。沸点が低めなところも見えちゃったけれど、YS横浜戦に続いて「強いDF」ぶりを見せてくれた。

でも、「これで盤石！前途洋々！」とは言えないのは、この試合の愛媛が「引いて守ってカウンター狙い」をしなかったから。

殴り合いな展開になれば、田中順也が目覚めなくても（苦笑）これだけのことは出来る、とわかった。あとは、こういう試合がどれだけ出来るか、だね。（吉田鑄造）

【第3節】沼津 2-0 岐阜

●ホーム開幕戦では快勝したFC岐阜。この勢いで連勝を！とアウェイに乗り込んだのだけれど、実は僕は少し懸念に思っていたことがあった。「『J2降格組』には勝てたけれど、J3に慣れたチームにはどうなんだろう？YS横浜にも苦戦したし……？」で、そんな予感は当たって欲しくはなかったですよ（溜息）。

前節で3-0と快勝した岐阜は、スタメンの変更なし。一方、ホーム開幕戦で0-5と惨敗した沼津はスタメンを変更し、対策を練った上で試合開始から激しくボールに寄せてくる。一方の岐阜は、様子見で試合に入って、いきなり激しくくる沼津の勢いに対応が後手に回ってしまった。確かにジャッジは基準が不安定だったよう気がする。だけれど、それも含めてサッカーだし、それがJ3だ。そして、#11 染矢一樹のFK……うーん、僕はソメなら絶対にそこしか狙ってこない（狙えない）って思ってたんだけどなあ…（溜息）。まあ、コースも抜群で年イチレベルの見事な（笑）“恩返し弾”ではありました。

ここで反撃に転じなくてはならない岐阜だったけれど、どうにも攻撃のギアが入らない。やっぱりウチはパス主体のサッカーで、激しく寄せてくる相手をおかしく、ついバックパスを選択してしまったり、ボールをロストしたり。愛媛相手には激しい寄せができてた（ように見えた）岐阜だったんだけど…気がついてみると愛媛って3連敗なんですよ…できて当たり前だったのかしら（苦笑）。そんな状況での2失点目…（溜息）。あれはダメだ。まあ見たことあるんですけどね、何度か。けれどマジで萎えるので、2度と見たくない代物です、ええ。非常に残念ながら、これで沼津をかなり楽にさせてしまった。無理に得点を狙わず、しっかりと中を固めれば良い。一方の岐阜は焦りも出てきて、さらに攻撃がチグハグに。この展開なら、もうちょっと前目の中盤に枚数が必要じゃないかな？そして後ろではボールが回しても、中盤や前線にクサビのパスが納まらず、セカンドボールを回収できなかった場面が多かったように見えた。その中でも#45 ンドカの身体を張ったプレーは上手くボールが繋がって迫力もあって、あれは入って欲しかったなあ……おそらく交替回数のために前半終了まで引っ張りましたが、彼の負傷が少し心配です。

後半は修正がされて攻撃回数も増えたけれど、やはりゴール中央を固めてくる沼津の守備を崩せない。それと、どうしても新監督・新加入選手ばかりで攻撃してるからか、少なくともこの試合では、選手間の連携やプレーの精度が足りていなかった。ポストプレーなのか裏抜け狙いなのか、あるいはパスなのかシュートを撃つのか。もっと思い切りゴールを狙っていけばと思える場面でも、ボールを止めてしまったり、あるいはコースがズレたり。#30 宇賀神友弥のポストを叩いたシュート、アレが入っていれば……『たられば』は禁物ですが、そんなことも思ってしまいます。選手たちも「こんなハズじゃ無い」と感じながら、ズルズルと時間が経っていつってしまったのかもしれないと思う。

結局、1点も奪うことができずに試合終了。うーん、なんだか昨季にも見たことがあるような、そして愛媛戦とは立場が逆になってしまったような試合内容と結果に、ホーム開幕戦で少し浮かれていた僕の気持ちは、厳しく冷たい現実を引き戻されてしまいました（苦笑）。もう、僕としては“魔境・愛媛”と呼ばずにはいられないようなスタジアムの印象に。勝てないなあ…（溜息）。

試合後の勝利インタビューで#11 染矢が『前節で無様なサッカーをしてしまったので……』と、この試合に懸けていたことを語っていた。岐阜の選手たちも、この試合での悔しさ・

反省を決して忘れずに、今シーズンを戦い抜いて欲しい。『あの敗北で岐阜には火が点いた』と言われるような、そんな糧にしなくてはならないと思う。（ささたく）

●それにしても。ソメちゃん、キミねえ……。あんなに謝らなくていいんだよ？だいたい、悪い、と思ってないでしょ（笑）。で、ナニが「一度も練習したことがなくて。もちろん、蹴ったこともなくて。」だよ。挙句に「枠の中に蹴るときゃいいやろ、と思ったらイイとこ行きました。入るとは思わなくてビックリしました。」とか、どの口が。ウチの時だけでも、どんだけ、セット・プレーのキッカーをやったと……（苦笑）。いっぱい、練習してたもんな。カラダは覚えてるってヤツか？ヤラしました。助走の時点でヤな予感したんだよね。脱帽です。開幕から2試合連続でフル出場。元気な姿を見せてくれて、メインの岐阜サポにも挨拶してくれてありがとう。思いっきり、拍手しちゃったよ。次は長良川で会いましょう。え？試合？まあ、なんだ。拍手できる要素皆無、かな？無得点で勝ち点ナシなのはもちろん、審判の傾向も掴み切れてなかったし、仲間のミスフォローしきれなかったんだから、全員落第点。酌量の余地もない。特に、2失点目。あんなブザマなプレーを見るために、わざわざ愛鷹山に登ったワケじゃないんだけどねえ？ま、昨季の願いが効いてたのか、タメイキは出なかったよ。心身ともに固まっちゃってさ。村尾やビクトルを見てるから、たまにはあるサと知ってるけれど、何回見ても慣れないねえ（苦笑）、慣れたくもないけど。だが、選手や監督はJ3のサッカーに早く慣れてくれ。

ところで、祝勝会の席で「昇格するためには、沼津、鳥取に勝つのはマストで、最初のヤマが富山、松本との連戦だな。」とか言ってたヤツ、出て来い……。オレか。反省してます。でも、DAZNの見逃し配信で確認したら、前半もそれなりにシュート打ってたんだね。Jデビューの相手GKの好守もあったけれど、記憶にないなんて、相当視力とアタマが劣化してるね。この認識違いについてはお詫びします。選手の皆さん、ごめんなさい。しかし、サイドチェンジは出来ても、真ん中で収まらない、真ん中から攻められないではね。だからって、後ろで回されててもなあ。沼津のプレスはキツかっただろうけど、コレを交わせない、突破できないじゃ、このカテゴリーは勝ち抜けない。それがJ3。でも、ウガのシュートと石津が脚に……。いや、何でもなし。次だ、次。切り替え、切り替え～。（ぐん）

●やれやれ。「たかだか（愛媛戦）1試合の勝利で浮かれ気分になった俺らって……チョロい？」と反省しきりです。ぼくの周囲では、「2失点目がすべてだった」で見解がほぼ揃っている。あれで沼津のゲームプランが固まってしまった。あんな失点をもし長良川でやったら、深くて重くて黒くて、重油を含んだ雨のような溜め息がスタジアムを包み込んで、選手のパフォーマンスに著しい悪影響を及ぼしたことだろう。アウェーでよかったよ、ホント。

さて、3試合で勝ち点4。反対多数で否決されると思うけれど、解任動議が提出されてもおかしくない状況ではある。なにせ、岐阜が戦った3チームのいまの順位は、15位、16位、18位（最下位）。上位陣と切った張ったをやったの3試合勝ち点4とはワケが違う。

「中を固めればどうということはない」とバレてしまった以上、三浦監督は、早急にプランの修正が必要だと思う。もちろん、これだけの戦力があるのだから、きっと時間をかければ美しかったり楽しかったりのサッカーになるだろう。でも、何度も書いてるけど、「いずれ美し」かったり「完成すれば美し」かったりというのは、もはや『呪詛』に過ぎないというのは前号の『岐大通』で書いた通りだし、小松社長の唱える「岐阜のフィロソフィー」とも異なるはずだ。（吉田鑄造）

【第5節】富山 1-3 岐阜

●沼津に敗戦、そして選手に新型コロナ陽性反応が出てチームは活動停止。結局、選手6名とスタッフ2名に陽性反応者が増えてしまい、ホーム鳥取戦は中止。昨年も(アウェイ戦だったけれど)この時期に鳥取さんとの試合がウチの新型コロナ感染で開催中止になったよね…まずは鳥取さんに心からお詫びを申し上げたいです。そしてチームは活動を再開したものの、当然ながら陽性反応が出た者は活動を制限される訳で、たぶんしばらく試合には出られない。僕は少し不安に、だけど『沼津戦で負けたから選手の入替えは必要で、強制的に入れ替える必要があったからだけど、これが有効に働いてくれれば…』と、少しポジティブに考えていた。

さてスタメンは…ええ、覚悟はしてましたがやっぱり6名がベンチ外になってますね(苦笑)。そして、これまでSBにコンバートされてた#9山内寛史がFW起用に。そして試合は序盤から激しいボールの奪い合いに。両チームとも前線から厳しく寄せてきて、痛む選手が何人も。おまけに春先なのに気温は27℃超、今季から毎試合必ずしも設ける必要の無い飲水タイムが、この試合では設けられたように、激しく消耗する試合。ましてや練習できてないだろう岐阜の選手たちの体調が…と心配していたところで、やっぱり先制点を浴びてしまう。岐阜の選手は枚数は揃っていたけれど、寄せが少し甘くなっていた。これで運動量が落ちるかと思ったけれど、1失点で下を向くことなく攻める岐阜。前半アディショナルタイムの#9山内寛史のヘッド、上手くループになってくれて、実に良い時間に同点！これで後半は振り出しから始められる岐阜は攻勢を強め、後半52分に#42柏木陽介の蹴ったCKを、再び#9山内寛史がピンポイントでニアに入ってヘッドでそらし、ゴールネットを揺らして逆転！そして後半60分、後半開始から投入されていた#7村田透馬が左サイドを突破して中央に折り返し、ニアで#9山内寛史が潰れて(フリックしたかも?)、逆サイドから詰めていた#8窪田稜が押し込んで3点目！いやー、2点目のセットプレーでの一撃も素晴らしかったけれど、3点目の左右で崩してのゴールもお見事。何度もウチの失点シーンとして見させられてた気がします(苦笑)。

その後は富山の攻撃を凌ぎきる岐阜。今季から導入したフィジカル練習の効果なのか、選手交代も奏功して富山と比較しても運動量が落ちず、#19桐畑和繁のファインセーブもあり、あとは無失点で終えることができた。1-3と今季初の逆転勝利、いやー気持ちいい！

#9山内寛史は今季SBにコンバートされて、守備陣のイヤなポジションが分かるようになってきたのかもしれない。そして#27本石捺くん、キミもいつの間にかポストプレイヤーにコンバートされた？髪型もコンバートしてたから、ホント誰なのか分からなかったですよ(笑)。あと、今季初スタメン&フル出場おめでとうの#32山内彰くん、キミ大卒ルーキーですよ？なんか堂々とプレーしてた気がするんだけど？(笑)

幸いなことに、アクシデントが原因だけでも新しいメンバーを試すことができ、そのメンバーが結果を出した。これで今までのメンバーもウカウカしてられなくなり、これまで以上に激しいスタメン争いを繰り広げてくれるだろう。それは必ずやチームを強くする。そして、必ずや良い結果に繋がってくれる。今はそう信じたい。(ささたく)

●アディショナルタイムは表示された4分を超えても継続されたけど、主審が指示した後に選手の接触とかがあったからね、しかたない。そんなふうには余裕を持って迎えた勝利の瞬間。でも、アディショナルタイムに入る頃には「勝ったな。」と思えるような展開だった。いや、残り6分から4点取られて逆転負けしたクラブのサポにはあるまじき心情だけどね。油断大敵、油断大敵。とはいえ、コロナ明けのチーム状態に対する不安は多分あって、「せめて、昨季のアウェイ鳥取戦くら

いの気持ちを見せてくれたら十分だな。」とっていた僕にとっては望外の内容と結果だった。これこそが監督の言う「試合に飢えている選手」の気合、気迫でしょうか。実に見事な逆転勝ちでした。しかも、いつもは決められる側だった、前半終了間際のゴール。それをキッチリやってのけ、なおかつ、後半開始早々に勝ち越しとか。久しく見てないよね、こんな試合。そういえば、昨季の八戸戦から遠征しての現地観戦を再開したボク自身にとって、ようやくのアウェイでのバンザイ四唱。昨季の熊本戦は行かなかったけど、八戸、横浜、沼津と転戦して、やっとのことで立ち会えた。いつ以来かな？と調べたら、2019の沖縄・タピスタでの琉球戦以来だった。3年ぶりか。長かったなあ。

内容的には、先制された時の、アキラくんが釣り出されて、バイタルがポッカーリ空いた所を含め、危ない場面はいくつかあった。とはいえ、そのアキラくんじゃなくて、庄司を替えるかね？ビックリしました。前半だけで菊池をトーマに替えたり、終盤で若手の2人、ナツとアラタを投入する等、すごく大胆な選手起用。いや〜、ここ数年では記憶にないな(笑)。そして、何より、ヒロフミの活躍。FWがあればキッチリ仕事してくれたら勝つよね。FWもできるCBってのは何人も見てきたけど、SBもできるFWってのはレアでしょう(いないことはないか)。文句なしのMOMです。今季初スタメンの窪田くんも初出場のトーマも結果を出してくれたし(3点目のアシスト？クロスはトーマだよね?)、沼津戦のウップンは晴れました。これで、改めて、目標に向かって進めるんじゃないかな？

次節も難しい相手だけど、目標達成のためには後れを取るワケにはいかないでしょ。楽しみにしてます。頼んだよ！(ぐん)